

地域の保育園・幼稚園はインフルエンザ流行に どのように向き合っているか

清水宣明

愛知県立大学看護学部教授、感染制御学、コミュニティケアシステム

地域でのインフルエンザ対策の実例の最後として、保育園・幼稚園で活躍する先生方をお願いして、日ごろ取り組まれている内容をレポートさせていただきます。保育園・幼稚園は、インフルエンザ感染経験の少ない乳幼児が、ひとつの限られた空間の中で長時間いっしょに生活する場です。そこに感染が入れば大きく広がる恐れがありますので、地域での対策では小学校と並ぶ重要拠点です。

インフルエンザ対策について

名古屋市守山保育園
園長
浮葉敦子

保育園は児童福祉法第24条に規定される児童福祉施設である。保護者の就労、疾病、介護等により保育を必要とする乳幼児を保育することが求められる。

乳幼児が安全に心身ともに健康で過

ごせるために、いろいろな配慮がされている。

1. 子どもに対して

①手洗い・うがいの励行

手洗いは日頃の衛生管理の視点からも、自分で歩けるようになった乳児から、流水による手洗いをする。食事の前には泡石鹸を利用し、丁寧な洗い方も指導している。幼児になると自分で必要に応じて洗えるよう

になるが、感染症の流行する時期には、より丁寧な指導を心がけている。うがいが難しい年齢の子どもには、お茶を飲ませるなど水分補給もあわせて行う。幼児には保護者に個別のコップを用意してもらい、戸外からの入室の際などに、うがいをする習慣を身につけている(写真1)。

②咳・くしゃみの対応

咳・くしゃみの症状のある子どもには、マスクを着用させる。咳エチ



写真1(守山) 手洗いの様子